

会 議 録

会議の名称	令和5年度結城市総合教育会議
開催日時	令和5年11月24日 午前10時23分
開催場所	結城市役所4階大会議室3
出席者	構成員 結城市長 小林 栄、教育長 黒田光浩、教育長職務代理者 赤木信之、教育委員 中村義明、教育委員 岩崎 勤 構成員以外の出席者 総務部長、教育部長、次長兼総務課長、次長兼生涯学習課長、学校教育課長、参事兼指導課長、スポーツ振興課長、学校教育課課長補佐兼学務係長、学校教育課主査兼小学校新設推進係長、総務課総務係長
議 題	意見交換：教育の充実について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
審議内容	別紙のとおり
問合せ先 (事務局)	総務部総務課総務係 TEL 0296-34-0402 FAX 0296-54-7009 e-mail soumu@city.yuki.lg.jp
そ の 他	

令和5年度結城市総合教育会議

○日 時 令和5年11月24日 午前10時23分から

○場 所 結城市役所大会議室3

○出席者

(会議の構成員)

小林 栄 市長

黒田光浩 教育長

赤木信之 教育長職務代理者

中村義明 教育委員

岩崎 勤 教育委員

(構成員以外の出席者)

総務部長、教育部長、次長兼総務課長、次長兼生涯学習課長、学校教育課長、参事兼指導課長、スポーツ振興課長、学校教育課課長補佐兼学務係長、学校教育課主査兼小学校新設推進係長、総務課総務係長

○欠席者

田中昌希 教育委員

○議題 (協議・調整事項)

意見交換：教育の充実について

○総務課総務係長

定刻よりは若干早い時間ではございますが、皆様お揃いでございますので、ただいまから令和5年度結城市総合教育会議を開催いたします。

最初に小林市長から御挨拶をお願いいたします。

○小林 栄市長（以下「市長」）

【挨拶 省略】

○総務課総務係長

ありがとうございました。

続きまして、黒田教育長から御挨拶をお願いいたします。

○黒田光浩教育長（以下「教育長」）

【挨拶 省略】

○総務課総務係長

ありがとうございました。

それでは、本日の出席者を御紹介いたします。小林市長と黒田教育長には御挨拶をいただきましたので、教育委員の皆様方から御紹介をさせていただきます。なお、田中委員から欠席の御連絡をいただいております。

【教育委員及び出席職員の紹介 省略】

○総務課総務係長

それでは会議に入る前に本日の資料の確認をいたします。

【資料の確認 省略】

○総務課総務係長

それでは早速会議に入ります。議事の進行につきましては、総合教育会議設置要項第4条の規定によりまして、小林市長をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○市長

はい。

教育の充実という漠然としたテーマになっちゃうので、まず初めに、今、統合小学校が、着々と準備を進めているところなので、新しい学校作りについて私の思いをお伝えしながら、現状のどんなふうに進んでいるかも報告をもらいながら、進めていきたいというふうに思います。

まずですね、子どもたちが少なくなってきたというところもありますけれども、子供たちの教育を受ける環境を、とにかく整備をしたいということで、結城南中学校区の子どもたちをこれからどう教育環境の充実を図っていくかということで、もちろん経済的側面もございますけれども、それ以上にやっぱり新しい教育環境を作って、子どもたちの成長に繋げていきたいという思いから、小中で連携を取りながら、新しい教育体制を作りたいということでスタートいたしましたけれども、その新しい学校作りの中心としたいことというのは、私は体験型の学習を、子どもたちが小さいときからいろんな様々な体験をさせたいと。それは子どもたち1人1人の潜在能力というか、子どもたちはもう我々が想像できないような能力が隠されてると実は思っておりまして、その才能をどう見つけて伸ばしていけるかっていうのに

主眼を置いた教育ができないのかということのを常に考えておきまして、それには様々な体験を通してですね、自ら学ぶ意欲というか、そういった子どもたちを育てたいなということがございます。

それと、ここのところ考えているのは、オーガニック給食に取り組みたいということで、有機栽培の、地元の地産地消も含めてですね、子どもたちの健康づくり、特に子どもたちの食生活にきちんと目を配りながら、その中心に学校給食を進めていきたいなということで考えております。

まず、モデルケースとして結城南中学校区の小学校、中学校をやっていき、将来的には結城中、結城東中学区の小中学校もそれをモデルとしながら取り組んでいければなというふうに思っております。

私の思いはそんなところでして、現状の学校づくりについて教育長からみなさんのいろいろご意見いただきながら、進めていきたいと思っております。

○黒田光浩教育長（以下「教育長」）

私からかいつまんで学校の状況について説明させていただきたいと思っております。

市長からお話しがありましたとおり、いろんな体験を実際に取り組んでいるところでございます。特に今取り組んでいることは、ふるさと学習、プログラミングと英語教育ということで、その三つを重点的に、今後どういうふうにするかっていうことで今進めているところです。

まず一つ目のふるさと学習というのは、この体験を含めて実施していければと、そういう考えております。例えば、結城廃寺跡、江川の香取前遺跡、山川不動尊など、結城にはいろいろな歴史的に貴重な史料が残っておりますので、そこに行って肌で感じて、子どもたちに結城の良さっていうのをまず感じてもらいたい、知ってもらいたい、体験してもらいたいということがあります。

二つ目に、プログラミングということで、これから間違いなく情報教育っていうのは大学入試に入ってくると思っておりますので、それに向けて、小中一貫した、高校受験、大学受験に行けるような、そういうようなプログラミング教育ってのはできないだろうかということで、来年度からの3年間の計画を立ててもらって、それをぜひやっていきたいということを考えております。

英語はなかなか身につかないものですが、数字で表れる形で、今もう実際に始まっているんですけども、英検3級にチャレンジするような機会を与えていきたい、英語っていうものを、もっともっと外国語っていうものを身につけてその体験に生かしてもらいたい。

今、その三つについて、学校で体験型の学習ができないかということで模索しているところです。

そのほか、部活動にしてもコミュニティスクールにしても体験ってのは必要だと思いますので、それらも含めながら、毎回計画を見直ししていければと考えております。

○赤木信之教育長職務代理者（以下「赤木委員」）

市長の公約の中にある「新3K宣言」、とてもいいキャッチフレーズだなと思って見させていただいたんですが、その中で教育を取り上げていただいたことは本当

に私達にとってもありがたいことだなと思ってます。その中でも、特に個性を重視し、子どもたちの能力を最大限に引き出すとか、そういうことを実施実践するために体験活動を重視するとか、あるいはICT教育の充実を取り上げていただいております。計画の実現のためには、やっぱり社会で言われてる人、物、金、情報の四つの資源が大事だとされてます。特にやっぱり人・人材、それから物、設備。それを整えるためには、やっぱり金、予算が一番大事になってくるのかなと思います。その教育の面での予算取りについても、市長さんのご尽力をいただければありがたいなと思いながら感じておるところです。

○市長

本当はもっとやりたいことがたくさんあって。

本当に今おっしゃったようにね、とにかくやっぱり子どもたちの能力っていうのは想像できないものがきつとたくさんあるんだと思うんですよ。だからそのきっかけ作りをやるためにはやっぱり様々な体験を通して、気づきをね、どう促していくかっていうのは大切だと思うので、今、江川南小で白菜作りもやっていますけれども、農業体験も、できれば学校農園みたいな形ができないかなと思ってまして、そこで様々な、米作りや野菜作り、そういったものを、共同作業を通して、自分たちが食べてるものはね、たくさんの人の手を経て作られてるんだっていうのを、まずは、感じてもらいたいんですね。

学校で机に座って学ぶだけが教育じゃないと思うので、いろんな体験を通した経験も必要かなと思います。

○市長

中村委員いかがですか。

○中村義明教育委員（以下「中村委員」）

テーマが教育の充実っていうことで、かなり漠然としてるっていうか、それに尽きるっていうことだとは思いますが、いろいろ市長からも、本当に教育の充実っていうことを前面に出してもらえたら嬉しい限りです。

いろんな充実に向けてのアプローチがあると思うんですが、今は結城でまず教育っていうことを考えたときに、結城南中学校区の統合小学校、これをどうするかだと思うんですよ。それが一つのモデルになって、市内のそれぞれの学校にっていう展開になるのが一番いいかなと思っていて、ただ先ほど赤木委員からありましたが、私はもう何と言っても教育はもう金だと思うんですね、結局。元になるのはそれしかないんで、お金があれば、物があればあるほどいい。人は、私は教員を指すんですけど、優秀なサービスというのは、それに努力していただく、それに期待をするほかないんですけど。

新しい統合小学校は、これからどういう設計でもできるかなと思うんですね。この新しい小学校に関わる人が、最初にどういう意識で入ってくるかっていうので、かなりもう違うと思うんですね。入ってきた方が、その意識を新たにして、全く違う意識で、教師の変革を図るっていうそういう大きなテーマにもなるかもしれないけれども、そういう意識で入ってこられて、それで、この望む姿の小学校で教鞭をとってもらおう、そういった形が、スタートで要求されるのかなと思うんですね。そ

それを構築していくのに、今、教育長が言われたように準備していただいてっていうふうに私はちょっと考えたんですね。

○市長

教員・スタッフが決まるのは、大体いつ頃、何月ごろに。

○教育長

今も実際に、来年度からの人事については、核となる人材はちょっと置きたいなっていう気持ちで、今、配置を進めたいと思ってます。廃校になる小学校の校長・教頭も結城に理解のあるような、そういう校長・教頭に来てもらって、スムーズの一つに集められるような形で、人事は今年からもう始めたいと考えております。

○市長

あとは、新しい小学校の、小中の、その教育理念というか目指すものを明確に打ち出さないと、そこに新たに赴任する先生方の意識を統一して、新たに目指す教育方針をしっかりと打ち出さないといけないかもしれません。

○市長

岩崎委員。

○岩崎勤教育委員（以下「岩崎委員」）

結城南中の様々な体験の中で、結城市在住もしくは知り合いの方でもいろんな人脈でいろんな方、子どもたちのためになるようなそういう講師の方がいらっしゃると思うんですね。そういう人を頼んだときに、うまく授業に組み込めるような余裕があるとすごくいいなって、いつも思っております。そういう外部講師の方がうまくチャンスがあったら入るっていうのを少し考えていただけると、子どもたちもいいのかなというふうに思ってます。

それから、先ほど市長が言われたオーガニック給食。私はそういう分野なのですが、この前たまたま茨城県の食と農の交流会ということでつくば市であったんですけど、農研機構の方ともいろいろちょっと話したんですが、実際上国も県もそれを推進して行くっていうことでいろいろ参加されてるというお話を伺ったんですが、技術的には薬物とかはまあいけるんですけど、果菜とかいろんな多品目になってくると、あともうちょっと技術的なところが足りない部分があるということで、そんな話は農研機構の方がちょっと話したんですけど、もうやはり世界的な流れもそういう流れになってますし、それに付随して国も県ももちろんこれを推進していくわけですから、こういう取り組みは非常にいいと思います。

○市長

学校の指導っていうか、カリキュラム、いろいろ組むことは可能なんでしょう。

○教育長

はい。実は学校のカリキュラムっていうのが1年間35週なんですけども、実際やってるのが39週なんです。そこに4週間分多いんで、余裕分の時数っていうのを充てることは十分可能ですし、授業を、例えば5時間の日を週3日にするとか、そういうことも可能なので、新しいカリキュラムができないかどうかチェックしており、体験学習も組むことは十分可能だと思います。

○岩崎委員

例えばプログラムとか、いろんな企業の外部の方との話で子どもたちも興味を覚えるんじゃないかと思うので、とにかく興味を持って好きになってもらうことが一番の近道じゃないかなと思うので、うまくやれるとすごくいいのかなと。

○赤木委員

教育長のあいさつの中もありましたけど、茨城県の不登校が多い、結城市も本当に多いのが実態なんですけど、やっぱりこれを改めて考えてみると、無理して学校に行かなくてもいいんだっていうのをかなり強調した時期もあったんですよ。でもやっぱりよく考えてみると、集団生活の中で学ぶってことは大事なことだと思ってね。そういう意味で、学校ではこんな楽しいことやっているんだよ、こんな未来に繋がるような学習をしているんだよっていうのをどんどん発信して行って、その子どもたちの少しでも関心が学校に向いてくる、自分も行ってみようかな、面白そうだな、そういうふうに結び付けられるような、時間っていうものを、やっぱり先ほど教育長がおっしゃったような総合的な学習とかそういう中で生み出してアピールしていく必要もあるんじゃないかな、と思います。

○中村委員

統合小学校のことなんですけど、結局そこにもものすごく希望を持つわけですよ。市長、教育長が素晴らしい理念を持ってるので、これを具現化させるには絶対骨子だと思って、例えば金と物って絶対必要なんだけど、無限にあるわけじゃないんですよ。現存するものをなくしてもいいと思うし、スリム化して、それでそのお金・物っていうのはそこに充当させられるっていう、そういう天秤をもったらいと思うんだけども。

教育長もよく言ってた凡事徹底、私は大賛成なんですよ。一つのことを徹底してやっていくと必ず違う教育活動に波及するんだと思うんです。自分で拙い学校経営だけやってきた経験があります。

軽重があると思うんです。今取り組む、今実践するというときに、いくつも同じようにできないので、限られた、絞られたものに徹底していく。それが統合小学校だと思うんで、ここに全集中していただけたらと思うんですよ。

○市長

私もまずは統合小学校を結城のまずはモデルにできるぐらいに。それがゆくゆく結城中学校区と結城東中学校区、三つを拠点にしながら、教育の整備を図っていきたいなと思っているので、これを起爆剤にしたいと思っているので、魅力ある教育づくりということで皆さんには理解をもらってきたので、ここをしっかりとやっていくことが大切かなと思っています。

○中村委員

もう一つよろしいですか。そういう教育活動の中で、やっぱり中心は誰かって言ったときに子どもなんですよね。その先生方が作り上げる学校の雰囲気、本当に温かくて滋養的な、それから、1人1人が自由に体験できる、そういう醸成された場であれば子どもは楽しく学校で勉強できるんですよ。それは、限られた予算やその中でも、できると思うんですよ。その子どもたちの居場所をより良い快適なものにしてあげる。

結城の子どもたちを学校でどういうふうに育てるかっていうのは、やっぱりそれは、先生の力量にかかってくるんでしょうけど、でも学校全体でそういう雰囲気の場合を醸成していけば、おそらく不登校の解決にも一助になっていくのかなと思うんですよね。

○教育長

中村委員さんからのお話も、本当にそのとおりだななんて思って聞かせていただきました。やっぱり最近、保護者の中で無理して学校に行かなくてもいい、そういう保護者の方が増えてるのは事実なんですね。無理して学校に行かなくてもいいよっていうんじゃないくて、学校としては無理せずに行ける学校を作ればいいんじゃないかっていう、そういうやっぱり発想の転換で我々はやっていかなかったらまずいのかな、と思うんです。無理しなくてもいけるような、居場所があるんだよっていうところを、新設校にはそういうような空間というか場所を作って、それを売りの一つにしたいなっていう気持ちはあるんです。

地域によって保護者の考え方って全く違うので、例えばフリースクールの考えも違いますし、特別支援学級に対する考え方も全然違って、そういうことをよく理解した上で、居場所っていうのは無理しないでいられるような居場所と思って作ってもらってというのが、新しい学校の特徴・売りの一つでいいかななんて、そういうふうに漠然とってます。

○岩崎委員

子どもたちの不登校もそうなんですけど、ずっと、いろんな学校の先生方を見てきて、子どもたちからも、それから地域からも、それから保護者もそうですけど、そういう人たちから、非常にあの先生いいよねっていう言われる先生はどういう先生なのかなと思ってずっと見てきたんですけど、その先生たちを見ると大体共通してるのが、もう自分が赴任した学校が好き、結城市も好きで、もちろん子どもたちも好き。そういう好きな気持ちが溢れてる先生だから、子どもたちもいいし、地域からも保護者からも支持されるだろうなと。いつも見て思ってるんですけど、先生方やはり異動があるから、当然結城だけではなく、出る入るがあるわけですけど、でもそういう中でも、結城市に来たときにはそういうふうに思って接してもらうには、その先生の能力もあると思うんですけど、その学校の雰囲気っていうか、経営的なところも、校長先生をはじめとしたその学校の職場環境が、外へ影響しているんじゃないかなっていうふうに思ってます。先生方が、本当にすごく好きになって、能力を発揮してくれるような環境作り、職場作りっていうのも大きくなればなるほどすごく見ていかなくちゃならないのかなというふうに、私は考えてるんですが、いかがでしょうか。

○市長

基本的に何でも、人間関係もそうだけど、嫌えば嫌われるんです。やっぱりその人が好き、いろんな地域が好きな人はやっぱり伝わるから、喋らなくても、子どもたちは敏感にそういうことをわかるのかな。この先生はすごく自分たちのことを考えてくれてるっていうのは、多分伝わるんだよね。基本はやっぱり子どもたちが好きだっていうのは、まずはないとね。

○中村委員

あちこちテーマが変わっちゃって申し訳ない。体験型って本当非常にいいと思うんですね。その中で、例えばもの作りの中で例えば野菜を作るとか、稲を作るとかっていうことやりますよね。私が残念だと思うのは、米作りの田植えしかやらないっていう。それだったら種もみから始まって、芽が出て、全部そういったものを自分で育て上げてる過程で、稲作っていうことの体験ができて、初めて私は素晴らしいなと思うんですよ。生育過程とか、流過程を全部実際に見て感じる方が、肌で感じるってそういった体験型っていうのは欲しいのかなと思うんですよね。今、子どもたちっているいろんな体験の場がないですよ。自然体験を一つもしていない子どももいるしね。だから、学校で、教育的にそういう場をセッティングしてあげるっていうのも一つの体験型を構築していくのが必要じゃないかと。

○市長

そのためにも、田んぼとか畑を確保したいんですよ。そうすればね、それこそ成長過程を、実際に観て、そういうことかっていうのをやっぱり体験していかないと。ただ、田植え経験させていただいて、稲刈り経験させていただいて、餅ついてお疲れ様でしたじゃなくて、やっぱり学校教育としては、その過程がやっぱり大切だなと思うんだよね。神社のお祈りや豊作を願うお祭り、収穫の感謝のお祭りという稲作文化の成り立ちまで本当は踏み込んでいけばね。歴史の教材にもなるだろうし、そういったものを作っていければと思います。

○教育長

以前だったら、ポットに稲を作ってそれで終わりとか、さつまいものツル刈りは保護者と先生方でやってとか、それだけじゃ全然さつまいもの体験にはならない。やっぱり、今言われましたように、そこからどういうふうになっていくのか、例えば、江川南小学校の白菜っていうのは作るだけじゃなくて流通から食事まで実施している。それを指導課長、簡単に説明してもらえれば。

○参事兼指導課長

はい。昨年度まで江川南小学校にいました関係で、ご説明させていただきます。

【江川南小学校における野菜作りについて説明（省略）】

○市長

すばらしいね。最初に始めてから、もう何年ぐらい経つの。

○参事兼指導課長

20年ぐらいはもうやってるので、かなりもう土台はできているというか、地域の方々もそろそろこの時期になったら、江川南小の白菜をご馳走になるんだな、みたいな流れはあるので、非常に地域との繋がりも含めて、その体験活動は、これからもぜひ続けていけいきたい活動だと思います。

○市長

いいものはね、新しい学校にもどんどん取り入れて、また新しい伝統を作っていくと。

○教育長

小学校ごとにいろいろ地域の大事なものがあるんで、それをふるさと学習という

ことでやっぱり残していきたい。それはもう大事な使命だと思ってます。

○市長

単純に五つ小学校あるから、それぞれに個性がね、小学校にはあるので、そういうのをしっかりと残しながら新しい伝統を作ってくれるといいなと思ってます。

○市長

私はもう一つちょっと夢想してることがあって、お蚕さん飼えないかなと思って。結城もね、最後の1軒が大木にあったんだけど、やめちゃったんだよね。小山は5、6軒まだお蚕さん飼ってる農家があるらしくて、そこで取れた繭を結城紬に使っているっていうそういう話も聞くので。お蚕さんどうだろう。

○教育長

城西小学校と絹川小学校は、伝統的にやっています。4年生か5年生なので、出荷するような量ではなくて、繭を作っていく過程を学習しています。ぜひ伝統として検討していきたいと思います。

○赤木委員

絹義務教育学校で蚕を飼ってって、よく報道されていますので、あの近辺にはそういうやっぱり施設設備がまだ残ってるのかなと思います。そういうところに例えば結城の小学生が行って体験してくる。で、繭ができたころに行って観察してくる。そういうこともできると思います。

○中村委員

結城の伝統文化だもんね。ぜひ残していきたい。

○市長

できれば、機織り体験までやっちゃう。

○中村委員

地域の伝統をなくすっていうのは一番寂しいよね。日本ってね、伝統に裏付けられたその文化ってのが特徴だと思うんで、こういう地域からそれをなくすっていうのは、やっぱりまずいなあと。

○中村委員

最後に、私がずっと思ってて、結城の英語教育を本格的に復活させたいなっていう思いはあるんですよ。

今はあんまり学校に私達も訪問はしないんですけども、もう行ったときに英語教育をしているようなね、そういう雰囲気のある学校もあってもいいのかなと思うんです。もうグローバルな世界ですから、英語ってのは絶対必要だし、例えば、数学はあんまりできないとか理科もあまりできない。でも英語ができる。結城の子どもが英語できるっていう、これは強いですよ。これはぜひ、もうちょっと力を入れて欲しいなっていう感じだと思います。

○教育長

積極的に検討してまいりたいと思います。せっかく予算もついて英検の方もやっていますんで、さらに来年度はいろいろと工夫したいと思います。

○市長

なんか、昼休みを英会話漬けにして、よくしゃべろうって。とにかくもう思い切

ったことをやろう、本当に。

とにかく上げてもらって、こういうことをやりたいんだっていうのをどんどん出してもらって、とにかく教育を前面に出して、結城の特徴だと言えるぐらいに魅力ある学校教育をやってるんだっていうのを、市の内外にPRして、あの学校面白そうっていう学校作りをしたいと思ってるので。その他のことは、私の方でまた皆さんと一緒に相談しながら、いろいろやっていきたいと思います。

○市長

最後にどうですか、もう一言。

○赤木委員

はい。今日はありがとうございました。本当に、これからの結城の魅力となれば、新しい学校をどういうふうに進めていくか、またそれに対して従来の学校がそこに付随しながら、どういうふうに進めていくかということで、やっぱり先生方の連携っていうのを利用して進めていく必要があるのかなと思います。一緒に仲間と何ができる、こんなことができる、なんていうことができる結城市の雰囲気が醸し出されればいいのかなと思います。

よろしくお願ひしたいと思います。

○岩崎委員

私は、やはり子どもたちが、先生もそうですけど、好きになってもらう。好きっていうのは、学校もそうですけど、生活の中で大変なこともあるし、楽しいこともあると思うんですけど、好きっていうのは、いいところも悪いところも両方ひっくるめて好きだと私は思っているんで、子どもたちも好きになって、先生方も学校・結城市を好きになってもらう。そういう環境を、子どもたちに対しても先生方に対しても、良い環境ができれば、効果が何倍にもなるんじゃないかなというふうに考えていますので、どうしたらいいかっていうことを私ももちろん考えたいと思いますし、市長はじめ教育長にもいろいろと考えていただき、お力添えいただければ、いい道が待ってるんじゃないかなと思います。

○市長

それでは、こういった機会をまた設けていきたいと思います。

事務局、お願いします。

○総務課総務係長

それでは、以上で令和5年度結城市総合教育会議を閉会いたします。

皆様、お疲れ様でした。

ありがとうございました。

午前11時47分 終了